

## 令和2年度 山手留守家庭児童育成室の運営業務実施状況検証結果について

令和4年2月

吹田市教育委員会

地域教育部 放課後子ども育成室

吹田市立山手留守家庭児童育成室「たいよう学級」（以下「山手育成室」とする。）については、令和2年4月からこれまでの直営での運営から、株式会社セリオに業務委託している。委託期間は令和5年3月までの3年間である。なお、当該法人については、吹田市立佐井寺留守家庭児童育成室及び吹田市立東佐井寺留守家庭児童育成室運営業務も受託しており、市内で3育成室の運営業務を受託している。

児童福祉法において、事業に必要な水準を確保するため、市町村による事業者への調査や命令等が定められており、運営業務を民間に委託している留守家庭児童育成室（以下「育成室」とする。）の運営状況に関して、放課後子ども育成室による検証を行い報告するものである。

～検証方法～

- 1 放課後子ども育成室職員【担当事務職員、スーパーバイザー】による現地視察
- 2 保護者へのアンケート：委託初年度 年間3回、2年目以降 年間1～2回
- 3 事業者への聞き取り
- 4 チェックシートを用いた業務の履行状況の確認と評価

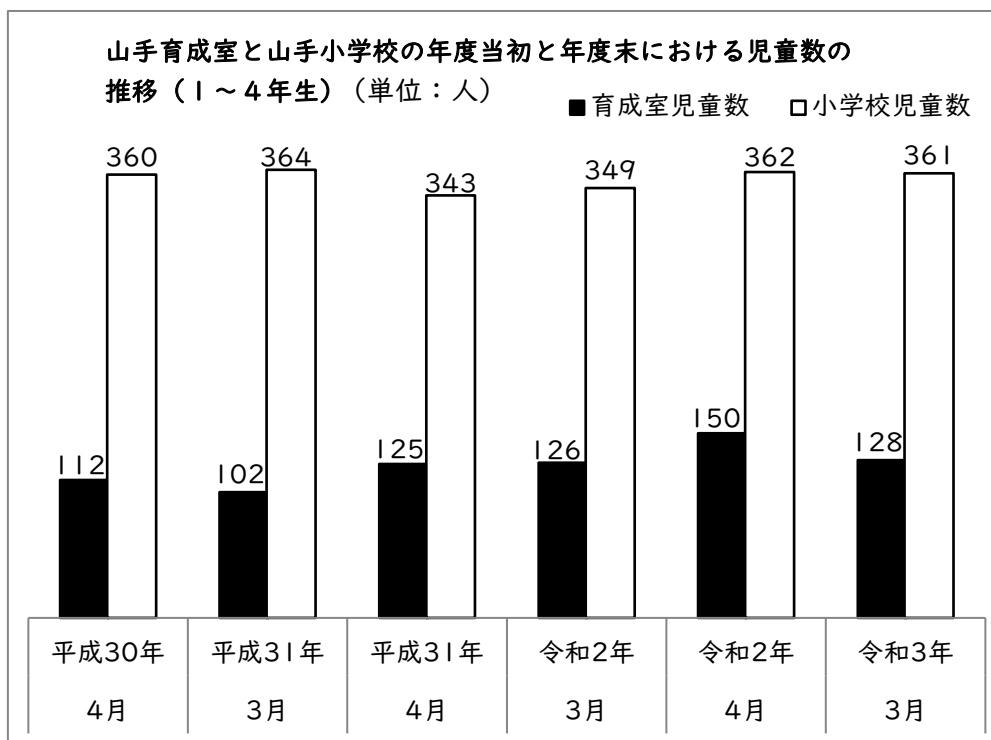
### 1 入室児童数について

山手育成室については、令和2年4月時点で150人（学年内訳、1年：51人、2年：49人、3年：25人、4年：24人、6年：1人）在室しており、うち配慮を要する児童（障がいを有する児童）が8人在籍している。4教室で運営しており、1室当たりの児童数は38人となっている。児童数の規模としては、36育成室中11番目と他の育成室と比べて中規模である。

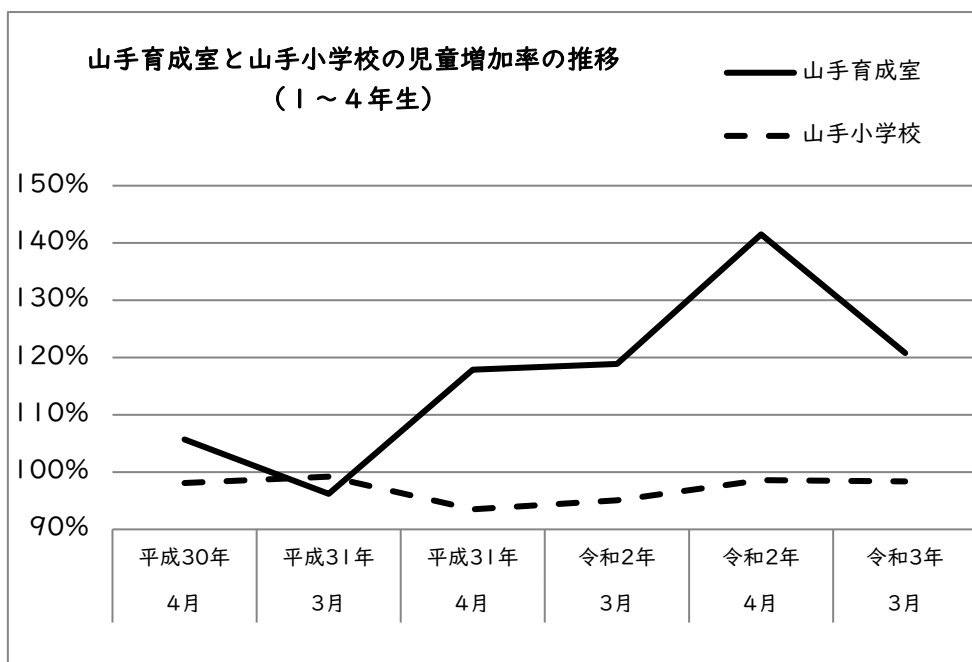
小学校の児童数は同水準で推移しているが、令和5年度以降は増加する見込みとなっている。それに伴って入室児童数についても、同様に増加していく見込みである。

【表1・2】

【表 1】

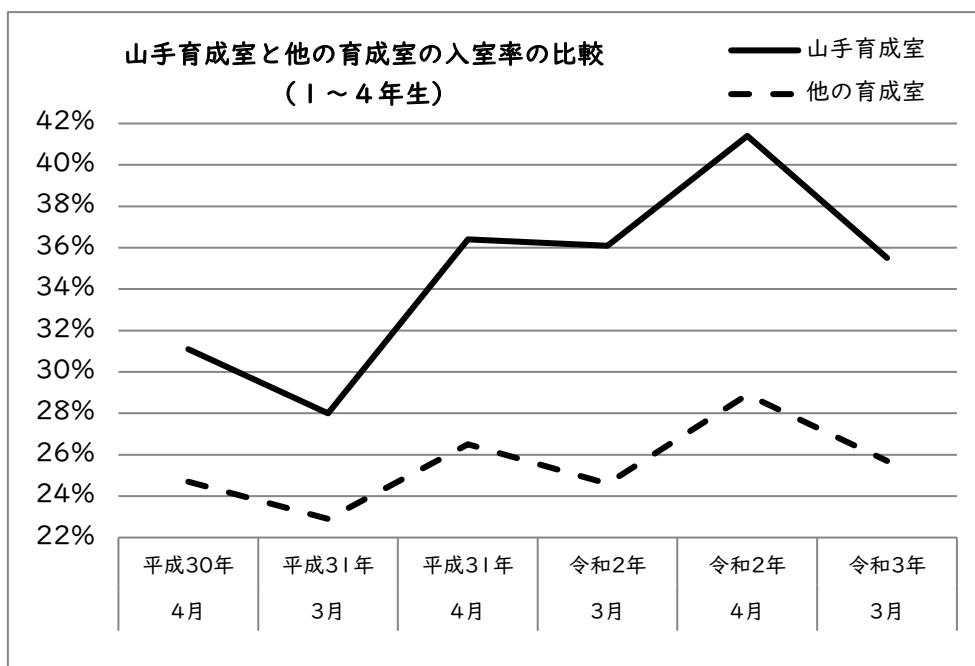


【表 2】



山手育成室の平成30年度から令和2年度までの入室率（小学校児童のうち育成室を利用している児童の割合）は【表3】のとおりとなっている。委託前の平成30年度から他の育成室と比べて高い率で推移してきており、委託開始年度である令和2年度には更に高い率となっている。この値からも現在の委託事業者による運営内容への不安感、不信感から保護者が入室を控えていることは読み取れない。

【表 3】



## 2 保育内容について

### (1) 日常における保育の取組について

山手育成室の日常の保育の取組としては、仕様書に沿って行われており、児童の健全育成への貢献は十分であると認められる。理由としては以下を挙げることができる。

#### ア 児童の登室、帰室状況等の把握をしっかりとっている

育成室のホワイトボードで出欠状況や早帰り、延長利用等の時刻等を把握しており、指導員全員が登室状況を確認できるように管理されている。また、毎月第3～4週目当たりを目途に、保護者に翌月の出欠予定表を作成してもらうことによって、事前に把握できる行事や欠席情報などを確認し、しっかりと登室管理を行っている。

また、校区内に不審者情報が出た際も下校の付き添いを行うなど、児童の安全にも十分配慮している。

#### イ 班活動や遊びを通じた児童の集団作りを行っている

育成室での当番活動やおやつの時間などでは、異年齢で構成した班での活動を行い、児童の個性を尊重しながら、協力して、各自の役割を果たすように促している。班構成は全学年が入るように考慮されており、一日保育における朝の会などではリーダーが出席確認をして1日の流れを説明するなど、高学年の児童がリーダーシップをとり、低学年の児童をサポートしたりまとめられるように指導している。また、おやつの時間やおわりの会のリーダーも児童が選び、どの児童も前に出られるような工夫がされている。問題が起こった際は、指導員は児童両者の意見を聞き

取っており、集団作りにおいて、無理強いすることなく、声掛けをしながら小集団、集団に近づけていくように働きかけている。

ウ 学校や地域（太陽の広場）との連携が図られている

学校には積極的に顔を出すように心がけており、学級だよりの配付も含めて校長や教頭、担任の先生と情報共有を行っている。特に、配慮の必要な児童など気になる児童の相談や報告、共有をこまめに行っている。

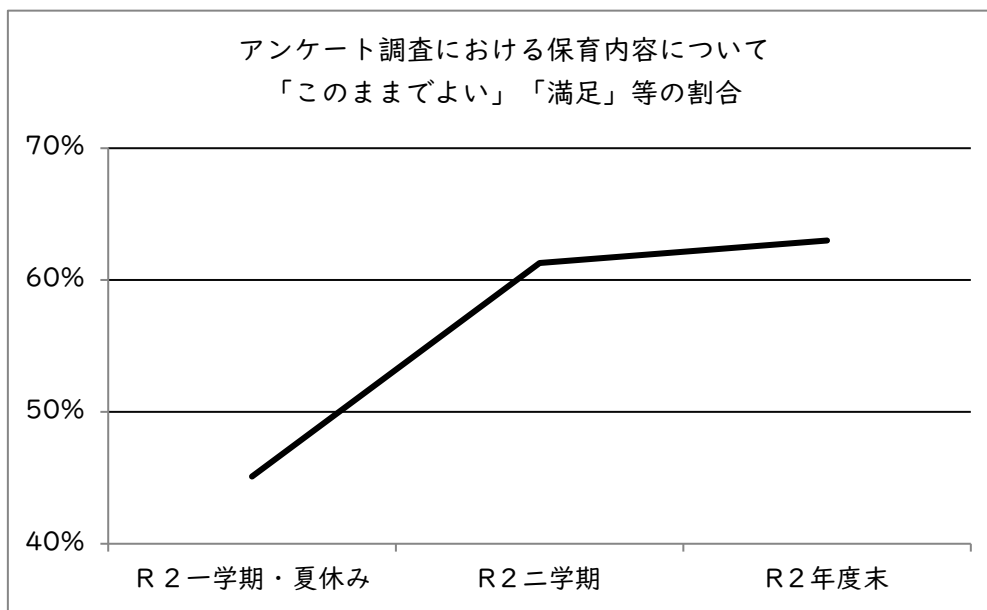
また、太陽の広場においては、令和2年度はコロナ禍で活動が実施されていない中ではあったが、毎月の連絡会議に参加し、今後の予定や行事などの共有や児童についての情報共有など日頃から関係機関との連携が図られている。

## (2) 保育内容に対する保護者の意見について

これまで行った3回のアンケートの調査結果から、「このままでよい」と回答があった人数については回を追うごとに増加しており、令和2年度一学期・夏休みのアンケートから1年間で約18%上昇している。令和2年度末には63%の保護者が「このままでよい」と回答しており、保護者からの評価も高くなってきていることが読み取れる。

一方で、3回のアンケートを通して、「わからない」という回答が一定数継続しており、自由記述内容としては、「おたよりが少なく活動内容がわからない」や「取り組んでいる内容がわからない」などが記載されている。このことから、保護者への情報提供をもっと丁寧に行えば、保育内容に対して保護者からも評価していただけると推察されるため、これらの意見を参考に今後の運営で改善を検討していただきたい。

【表4】



※「R2 年度末」アンケートについては、「イベントの回数や内容など」、「遊びの取組」で「満足」と回答した合計の割合の平均値としている。

### (3) イベント（季節ごとのイベントやお誕生日会等）について

お誕生日会は基本的に毎月最終週の水曜日に開催しており、アレルギー対応のケーキを購入して全員でお祝いできるように配慮している。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からイベントや取組等を中止又は縮小せざるを得ない状況で、思う様には実施できていなかったが、手作りのお誕生日カードを贈るなどして児童も喜んでいった。また、例年行われているたいようカーニバルやたいようっ子まつりについても、予定どおりの実施はできなかったが、卒室式では卒室生とその保護者が一人しか参加できない代わりに、在室生からのビデオメッセージを送るなど、コロナ禍でも工夫して実施されていた。

アンケートの回答においては、「イベント（お誕生日会、クッキング保育等）をもっと増やすべきである。」という意見が、一学期・夏休みのアンケートで25.4%【18人】、二学期のアンケートで20.9%【13人】あり、年度末アンケートでも、「イベント（お誕生日会など）の回数や内容などについて」という設問に対して「不満6.0%【3人】」、「少し不満10.0%【5人】」と意見があり、今後は、コロナ禍であってもどうすればできるかを考え、更なる工夫をしながら実施できる取組を検討していかたい。

### (4) おやつ提供について

山手育成室においては、季節感のあるおやつを取り入れるだけでなく、加熱処理済みの野菜などを取り入れることで、補食としての観点から栄養バランスを考慮して選定されている。また、選定の際には、アレルゲンの入っていないものをできるだけ選ぶように心がけており、アレルギーを持っている児童への対応として、メニュー表を保護者に配付して一品ずつチェックしてもらい、アレルゲンがあるもの場合は代替品で対応している。お皿についても見分けがつくように色分けをし、指導員から必ず手渡しすることを徹底している。

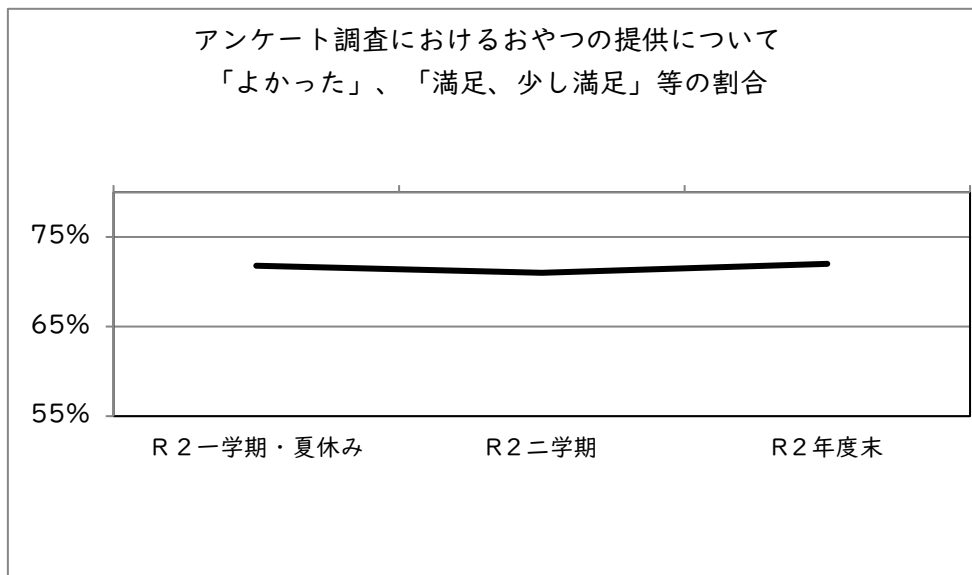
安全管理及び衛生管理については、配達されたおやつの賞味期限をホワイトボードに全て記入することで管理を徹底するとともに、コロナ禍での対応として、個包装のおやつを用意して、提供する際は必ず手袋を用いるなど衛生面でも配慮している。

### (5) おやつ提供に関する保護者の意見について

アンケートの回答では、【表5】のとおり、おやつに関して「ちょうどよい」や「満足、少し満足」等の肯定的な意見が、令和2年度1年間、計3回のアンケートを通して70%以上と概ね高い評価を得ている。令和2年度末の回答結果を見ると、「満足（56.0%【28人】）」、「少し満足（16.0%【8人】）」に対して、「不満（6.0%【3人】）」、「少し不満（12.0%【6人】）」という結果であった。自由記述欄では「体のことを考えたおやつで満足している」といった回答がある一方、「量が多い」、「もう少し子どもの嗜好にあったおやつを提供してほしい」、「おやつメニュー表を全員に配付してほしい」という回答もある。また、「わからない（10.0%【5人】）」の自由記述として、「おやつのメニューを知らない」という意見もあるため、おたよりなどを通

じて毎月のおやつメニューのお知らせをするなどより良い運用方法を継続して検討していてもらいたい。【表5】

【表5】



### 3 指導員について

#### (1) 指導員の配置について

山手育成室の指導員の配置については、4教室での運営であるため、教室に配置する指導員が8名となっている。また、配慮を要する児童に対する加配が7名必要であるため、1日当たり15名の指導員の配置が必要。1教室に常時3名ないし4名の指導員を配置しており、欠勤等が生じる場合も同委託事業者から応援が入り、柔軟な配置対応ができる体制であり、きちんと配置できていた。

指導員間の連携については、毎日のミーティングで前日までの引継ぎを行い、その日の連絡事項については、日誌に記入し、いつでも誰でも見て分かるようにされている。また、主任指導員が各担任に対してミーティング時に業務指示を行い、担任がそれぞれ伝達している。日頃からコミュニケーションを取る機会が設けられており、いつでもどの指導員も意見を提案しやすい環境となっている。放課後子ども育成室職員（担当事務職員、スーパーバイザー）とも積極的に連携や情報共有を図り、育成室の保育内容の充実・向上を図る努力を感じることができた。

#### (2) 指導員の児童との関わりについて

山手育成室では、児童との関わりにおいて、一緒に遊ぶ時はしっかりと遊ぶ、注意する時はきちんと注意する、とお友達感覚にならないようにけじめをつけている様子が見ええる。また、児童にとって分かりやすい言葉で伝えることを心がけており、注意する際は頭ごなしに叱るのではなく、しっかりと言い聞かせるようにしている。日頃か

らのコミュニケーションを通して、指導員と児童との信頼関係がしっかりと構築されているため、山手育成室は賑やかに声が交じり合い、楽しい雰囲気を持った育成室となっている。

(3) 指導員に関する保護者からの意見について

令和2年度年間を通じてのアンケートにおいて、指導員についての設問がある。この設問は「指導員は、児童をよく理解している」と「指導員は、児童のことで保護者の相談によく応じている」の2問からなり、指導員に対して保護者がどのような考えを持っているかを聞く設問となっている。【表6（数値は各回答に対する平均）】

各項目に対する回答については以下のとおりになっている。

「指導員は、児童をよく理解している」

- ・「思う」と回答 . . . 56.0%【28人】
- ・「少し思う」と回答 . . . 24.0%【12人】
- ・「あまり思わない」と回答 . . . 4.0%【2人】
- ・「思わない」と回答 . . . 4.0%【2人】
- ・「わからない」と回答 . . . 12.0%【6人】

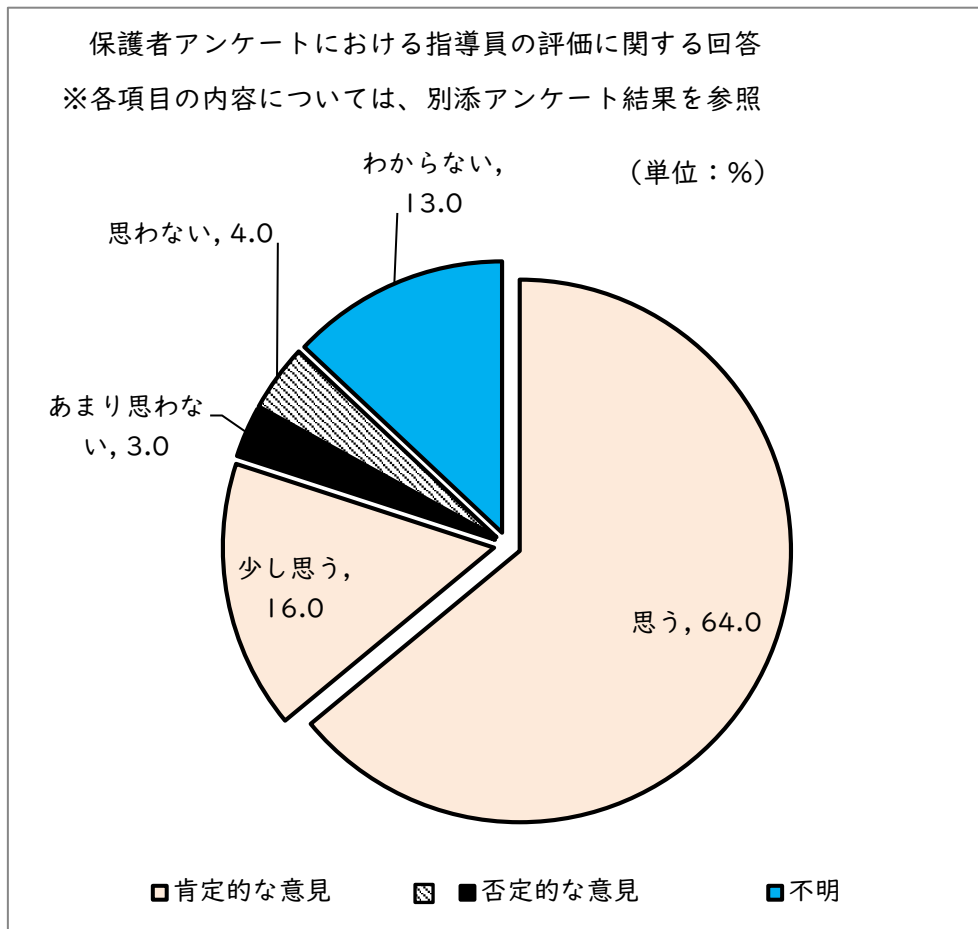
「指導員は、児童のことで保護者の相談によく応じている」

- ・「思う」と回答 . . . 72.0%【36人】
- ・「少し思う」と回答 . . . 8.0%【4人】
- ・「あまり思わない」と回答 . . . 2.0%【1人】
- ・「思わない」と回答 . . . 4.0%【2人】
- ・「わからない」と回答 . . . 14.0%【7人】

2問の回答を平均すると、「思う」の回答で全体の64%を占めており、更に「少し思う」も含めると、全体の80%と高い評価となっている。具体的な意見として、「忙しい中でも子どもをよく見てもらっている」や「相談がある場合でも、いつも真摯に対応してもらっている」、「親自身も信頼できるので、色々相談に乗ってもらい満足している」などが挙げられる。

今後も継続して高い評価を維持できるよう努めるとともに、「指導員間の連携がうまくとれていない」などという意見があるので、更に高い評価が得られるように期待したい。【表6】

【表6】



#### 4 総合的な評価について

##### (1) 放課後子ども育成室による評価について

放課後子ども育成室職員（担当事務職員、スーパーバイザー）による現地視察及び事業者への聴き取りによる検証による総合的な評価として、山手育成室の運営については、以下の理由により高く評価することができる。

- 1 育成室では、入室児童が笑顔で楽しく活発に過ごしている。
- 2 指導員が常に児童とコミュニケーションをとっている。
- 3 連絡事項については、主任指導員、委託事業者、放課後子ども育成室の間で共有が図られており、組織だった運営が行われている。
- 4 育成室の運営では、直営育成室の取組の内容をベースに組み立てられており、一人ひとりが好きな遊びを尊重しつつも、けん玉やこまなどの伝承遊びにおいては、上級生が下級生に教えるなど、班での関わりにもつなげることで社会性を育む姿勢が見られる。
- 5 配慮を要する児童とのかかわりにおいては、関係作りがしっかりできている指導員を配置するとともに、指導員間だけでなく学校の担任などとも情報共有し、連携

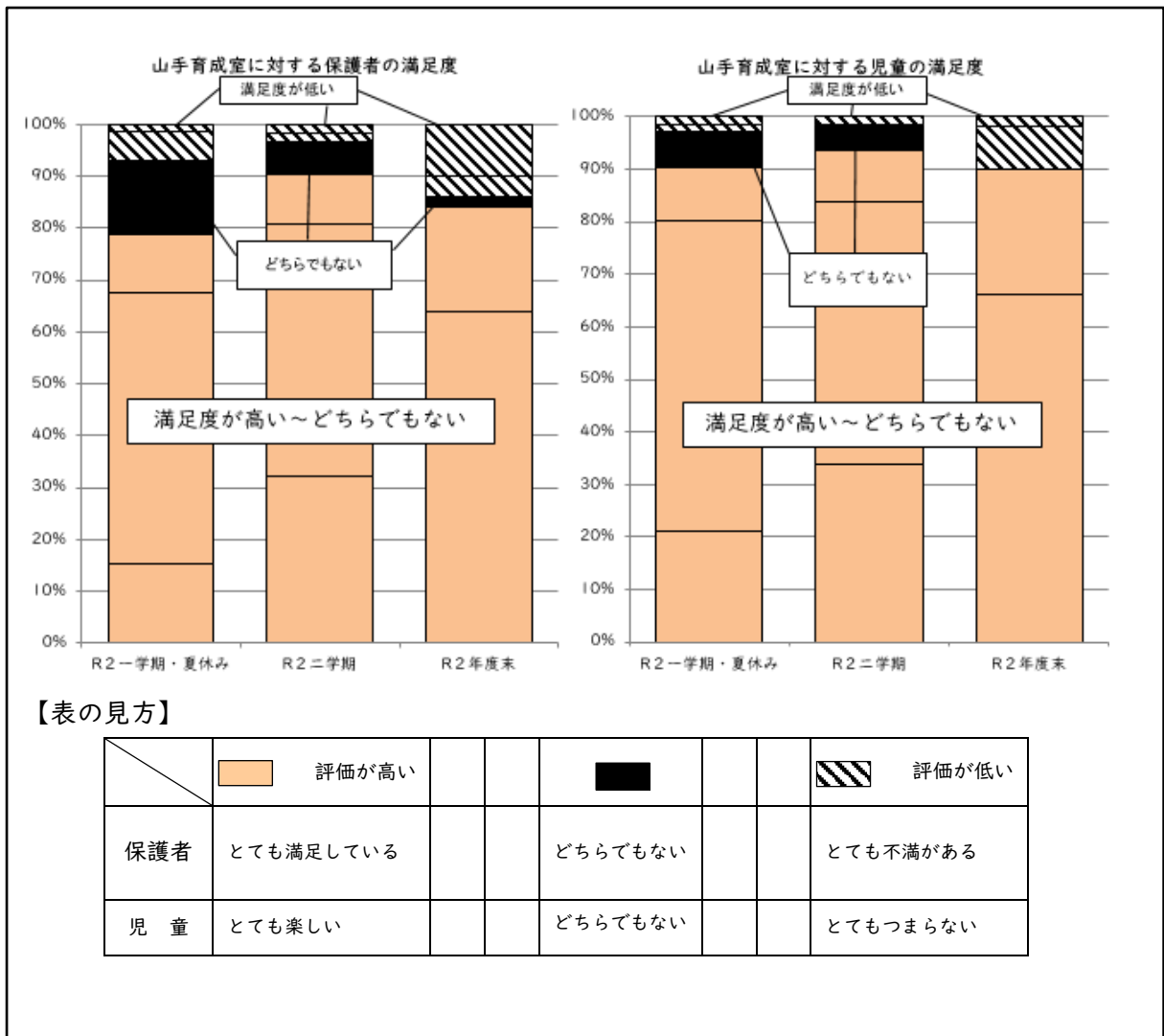


を図っている。

(2) 保護者へのアンケートにおける総合的な評価について

これまでの保護者へのアンケートには、「子ども達にとって山手育成室はどの程度楽しい場所か」を聞く設問と、「保護者にとって山手育成室はどの程度満足できるものとなっているか」を聞く設問を設けている。【表7】その結果から見える、事業者の運営状況の総合的な評価としては、「保護者や児童からも、概ね高い評価を受けている」と言える。

【表7】



5 終わりに

これまでの放課後子ども育成室の職員による視察や保護者へのアンケート等によるいろいろな検証、その他小学校をはじめとする関係機関との日々の連携による状況把握の結果、現在の委託事業者は、令和2年度において良好な保育や育成室運営が行われていることが確認できた。

アンケートの自由記述欄においても、「学校の話よりも学童の話をたくさんしてくれる」「学童に行きたい」等、児童が育成室を楽しんでいる様子が書かれた記述を多く見ることができ、また、「信頼できる先生で安心して学童に預けられる」「気になることを連絡帳に書くとすぐに対応してもらえりし、安心して保育をお願いできる」等、保護者が満足している内容の感想が書かれた記述も多く見ることができ。

一方で、先に記述のとおり「おたよりの頻度が少ない」、「情報提供が少なすぎる」という意見も見受けられる。

現在の委託事業者には、保護者からの意見を真摯に受け止めるとともに、今後とも現在の方針を継続し、コロナ禍だからこそ保護者との連携、保護者への情報提供の重要性をより一層認識して、保護者、学校、放課後子ども育成室としっかり連携を密にした運営を行ってほしい。

また同時に、普段から子ども達と保護者の声に耳を傾けて、改善が必要などころがないかを丁寧に検証しながら、更なる向上を目指してほしい。